事　業　報　告　書

2025 年度

一般財団法人 小林理学研究所

2025年度　事　業　の　概　要

2025(令和７)年度の国内外の主な出来事を概括すると、４月に大阪・関西万博が開幕し、半年間で2500万人超が来場する一大イベントとなった。この時、空飛ぶタクシーといった新たなモビリティが登場し話題となった。一方、国内政治では７月の参院選で自民・公明が大敗したが、10月には史上初の女性首相となる高市内閣が誕生し、２月の衆院選では与党自民・維新が大勝した。また、コメ価格の急騰、クマ被害の深刻化など生活に直結する問題も顕在化した。国際情勢では、２期目のトランプ米大統領のもとで日米関税交渉が進展するも、中東ではイスラエルとイランの大規模衝突が発生し、ホルムズ海峡が一時閉鎖されるなど、現在まで世界的な緊張が続いている。

このように目まぐるしく変化する社会状況の中であったが、小林理研の研究事業は順調に進み、学協会の研究発表会や会議に参加し研究成果を発表することができた。また国際会議にも積極的に参加し、inter-noise、ISE、日米joint meetingに、それぞれ職員を派遣して各種研究成果の発表を行った。その結果、国内外の研究者との情報交換や人的交流も深めることができた。

2025 年度の小林理学研究所の事業は、当初計画に沿って公益目的事業およびその他事業を順調に進めることができた。以下にその概要を示す。

【公益目的事業】

＜基礎研究事業＞

研究成果として他機関研究者との連名ではあるが２件の論文を作成し、日本音響学会（Acoust. Sci. & Tech.）と自動車技術会（自動車技術会論文集）の論文誌に掲載することができた。国際会議は３種類が開催され、職員を派遣し研究成果を発表した。それぞれ、8月24～27日の間にブラジル・サンパウロ市で開催された第54回inter-noise 2025、9月1～5日の間に島根県松江市で開かれた第20回ISE（Int. Symp. Electrets)、12月1～5日の間にハワイ州ホノルル市で開催された第６回日米joint meetingである。一方、国内では日本音響学会、日本騒音制御工学会、日本建築学会、日本聴覚医学会ほか、各学会が主催する研究発表会および研究委員会で着実に研究成果を発表することができた。

小林理研ニュースは会議報告のほか、研究紹介および技術紹介を含み、No.168～No.171の４号を刊行した。小林理学研究所レポートVol.37（2025年版)は論文、研究速報、講演論文、解説記事などを収録し、総ページ数263頁となった。これは昨年より29頁少ない結果であった。

＜研修事業＞

６月に 2025 年度「騒音入門研修講座」を開催し、参加者は９名であった。また 11 月には 2025 年度「圧電物性・デバイス講座」を実施し、９名の受講者があった。研究生として神奈川大学から１名、東京工業高等専門学校から２名を受け入れた。「音響科学博物館」には、258 名の来館者があった。

＜性能評価事業＞

建築基準法に基づく性能評価業務（遮音構造）は１件の試験申請があり、当所が定める業務規程等に従ってそれぞれ着実に実施した。

【その他事業】

＜受託事業＞

2025 年度も委託研究業務や材料試験業務の依頼があり、研究室間で人材の調整等を図りながら円滑に実施することができた。

＜不動産賃貸事業＞

従来通り、所有する土地の一部を賃貸し、賃料収入を得た。

目　　次

頁

【 一般事項 】 1

１．理事会に関する事項..... 1
２．評議員会に関する事項..... 1
３．職員に関する事項..... 1

【 公益目的事業 】 2

１．基礎研究事業..... 2
1-1. 研究概要 2
1-2. 業績発表事項 10
1-3. 外部から委嘱された委員および講師等 17
２．研修事業..... 23
３．性能評価事業..... 23

【 その他事業 】 24

１．受託事業..... 24
２．不動産賃貸事業..... 24

【 一般事項 】

１．理事会に関する事項

２０２５年　５月１４日
　議題　　2024年度事業報告及び決算について
　　決算に係る定時評議員会に諮る議題について

２０２５年　５月２８日　臨時理事会
　議題　　代表理事及び業務執行理事の選任について

２０２６年　３月３０日
　議題　　2026年度事業計画について
　　2026年度予算について
　　2025年度決算に係る理事会及び定時評議員会の招集について

２．評議員会に関する事項

２０２５年　５月２８日
　議題　　2024年度事業報告及び決算について
　　役員報酬について
　　理事および監事の選任について
　　評議員の選任について

３．職員に関する事項

区　　分	前年度末 (2025.3.31)	異　　動		現　　在 (2026.3.31)
		増	減	
主任研究員	4	1	0	5
主任研究員(非常勤)	0	2	0	2
研　究　員	7	1	1	7
副研究員	3	1	1	3
その他研究員	１０	0	4	6
研究助手	1	0	0	1
事務職員	4	0	1	3
そ　の　他	5	2	2	5
計	３４名	7名	9名	３２名

【 公益目的事業 】

１．基礎研究事業

1-1. 研究概要

＜騒音振動研究室＞

（１）騒音の予測ならびに対策・制御に関する研究

Noise control and prediction methods

１）2.5 次元数値解析を用いたバラスト軌道の鉄道騒音予測

－バラスト軌道のインピーダンス面上における騒音伝搬の予測計算－

Noise prediction of railway with ballast tracks using 2.5D numerical analysis - Numerical prediction of noise propagation over surface impedance of ballast track presented by acoustic properties of crushed stone layers -

波動数値解析による鉄道騒音予測で用いるバラスト軌道面の音響特性を明らかにすると共に、鉄道騒音の予測モデルへの反映と精度向上を目標としている。2024 年度製作した１辺 0.2ｍの正方形断面の音響管（上限周波数約 700Hz、２マイクロホン法）を用いて、大きさの異なる３種類の砕石の 100㎜深さに対する音響インピーダンス計測した。さらに、３種類の砕石層を軌道面とした鉄道騒音を 2.5 次元波動数値解析で解析した結果、伝搬距離に比例して音響インピーダンスの相違が顕著に現れた。（廣江）

２）超高周波音を含む環境騒音の評価に関する研究

－超高周波領域における聴取音圧と耳介形状の関係性について－

Research on the assessment of environmental noise with ultrasonic and very-high-frequency (VHF) sounds - Analysis on relationship in VHF region between pinna figures and the sound pressure level received at entrance of ear canal -

人によっては聴こえる可能性のある超高周波音（VHF 音）と呼ぶ 16kHz～32kHz の音の曝露や人への影響を調査している。大学との連携研究の成果として、耳栓の有無による純音聴覚閾値の差から VHF 音の聴こえには外耳道を通じで伝搬する気導音の寄与が高いこと、毛髪を対象としたパルスエコー法の実験から毛髪には VHF 音に対して吸音効果があることが判明した。受聴耳の正面入射条件で計測される VHF 領域の聴覚閾値に毛髪が及ぼす影響は小さく、耳介や外耳道の形状等による受聴音圧レベルの変動の影響の方が大きいことが示唆された。（廣江）

３）間欠的な交通騒音による睡眠影響に関する研究

－複数の客観データに基づく睡眠深さの推定方法に関する検証－

Research on sleep disturbance caused by intermittent traffic noise exposure - Verification on evaluating change of sleep stages caused by noise exposure in manner of several objective data -

過年度に自宅や協力者宅で人工的に作成した交通騒音を曝露し、就寝中の体動と心拍の２つの客観データと室内騒音を同時収録し、睡眠中の騒音曝露に対する客観データの応答関係を検討してきた。そこで、自動車と航空機の２つの交通騒音に曝露される戸建て住宅において、屋外と寝室の騒音曝露を監視した状態で、協力者７名に１夜だけ体動計と小型心電計を装着して就寝する睡眠実験を行った。結果、夜間の自動車騒音及び 150 機以上の航空機騒音と対応する就寝中の客観データが取得できた。（廣江）

４）航空機騒音の単発騒音暴露レベルの予測手法の研究

－緑被率 GIS データを利用した伝搬予測－

Aircraft noise prediction for sound exposure level around airport - Noise propagation prediction using GIS data of vegetation cover fraction-

航空機騒音の伝搬予測モデルに関して、飛行場周辺の土地利用状況を考慮した伝搬予測のための実用的な地表面性状の扱いについて検討している。引き続き土地利用状況に応じた地表面の音響インピーダンスを設定するために、「町丁別緑被率オープンデータ」を用いて、国内の空港・飛行場周辺の緑被率調査を進めた。また、だいち(ALOS)が観測したデータを基に作成した土地利用、土地被覆データ「JAXA 高解像度土地利用土地被覆図」の利用方法の検討を行った。（牧野康、横田）

５）航空機騒音暴露に対する騒音評価と睡眠影響

－民間空港周辺における社会調査のための騒音暴露推計－

Exposure-response relationships for aircraft noise annoyance and sleep disturbance - Estimating noise exposure for social survey around civil airport -

航空機騒音に対する騒音評価と睡眠影響に関して、過去の社会調査との比較のために、民間空港周辺での社会調査実施を検討している。国内の民間空港について、機種、便数、運航時間、飛行経路と住居地域との位置関係等を考慮し、調査候補空港を選定し、このうち１つの空港で現地踏査を行った。現地で運航状況、暗騒音の状況、周辺の住宅分布状況を確認し、調査実施の見通しを得た。また過年度の検討では日々の騒音暴露変動を考慮した評価指標を用いた暴露反応関係の有用性が示唆されたので、この評価指標の予測計算のため、調査候補空港の日々の運航状況を調査、整理した。（牧野康、横田）

６）建物等の反射を考慮可能な騒音伝搬予測に関する検討

Study on the prediction method of reflection from terrain and manmade structures

屋外における騒音伝搬に関して、気象および地表面の影響に関する予測方法について検討を行ってきた。今後普及が進むことが想定されるドローン（UAS）や空飛ぶクルマ（UAM）は比較的低高度で都市部を飛行することが想定され、騒音伝搬を予測する際には、地表面や気象の影響に加え、建物等による反射音の考慮が重要となる。そこで、回転翼機の騒音予測において、ASJ RTN-model で提案されている矩形反射面に対する反射補正量の周波数別計算方法に基づき、単独の比較的大きな建物からの反射音を考慮可能とした。あわせて、ヘリコプタ、UAS、UAM について基礎データを取得した。（横田）

７）航空機騒音予測フレームワーク J-FRAIN の応用および機能拡張

Study on the application and functional improvement of J-FRAIN

空港周辺における航空機着陸時の騒音曝露を精緻に予測するために JAXA/東京大学/成田空港振興協会/小林理研の４者で開発した J-FRAIN について、継続的な機能拡張を行なっている。本来 J-FRAIN は、マイクロホンアレイ計測結果と機上データ（QAR）が必要であるが、機上データが入手できない場合の音源モデルの構築方法について検討した。エンジン音についてはエンジンファンの回転数（N1）、ランディングギアなどから発生する空力音については真大気速度（TAS）の入手が必須であるが、これらをマイクロホンアレイ計測した音圧波形に含まれる純音成分や、カメラ画像から算出した対地速度と地上で観測した風速を用いて推定する方法の有効性を調べた。その結果、特定の機種については、地上で観測したデータを用いて推定した N1 や TAS を用いて音源モデルが構築できる可能性が示唆された。
（小林、横田、牧野康）

８）音源移動が吸音材付き防音壁の遮音量に及ぼす影響

－音源移動を考慮した 2.5 次元数値解析を用いた検討－

Influence of sound source movement on the insertion loss of noise barriers with sound absorber - Numerical investigation using 2.5D analysis considering sound source movement -

音源が高速で移動する場合、ドップラー効果や、音源指向性の変化に伴う振幅の変化によって交通騒音の環境基準に用いられる騒音レベル評価値が増大することが明らかになっている。このうち、音源指向性の変化に伴う振幅の変化は、振動音源や空力音源など音源の物理的メカニズムによって異なることが明らかになっている。一方で、高速鉄道騒音のうち寄与が大きい空力音源について、音源の移動による騒音レベル評価値への影響が明らかになっていない。そこで、空力音源列が等速度で移動した場合の騒音レベルを数値計算にて求めた。その結果、空力音源の場合の音源移動によるレベル評価値の増加幅は振動音源の場合の約２倍に達することが判明した。（牧野裕）

（2）音響計測技術に関する研究

Sound measurement technique

1）騒音測定における遠隔操作・簡易モニタリングの活用

Application of the simplified monitoring and remote control system for noise measurements

騒音計などの計測器と小型 PC を組み合わせた簡易的な無人騒音計測システムの開発を継続し、各機能のモジュール化を行っている。これまで開発してきた基礎機能を組み合わせ、ラウンドアバウト周辺における道路交通騒音の多点同期計測、水田地域における屋外音響伝搬実験、空飛ぶクルマの基礎データ取得等に活用した。これらの測定を通じて、多点無人計測のノウハウを蓄積するとともに、多種の計測機器の時刻同期機能および音と映像を組み合わせて遠隔地の状況を把握する機能が、今後のシステム開発においても重要課題であることを確認した。さらに水中音のモニタリングに必要な機器の性能等について、専門家へのヒアリング等により情報収集を行った。（横田）

2）衝撃音に対する聴覚保護具の遮音性能測定

Sound attenuation measurement of hearing protectors for impulsive noise

耳栓やイヤーマフ等の聴覚保護具の遮音性能測定法に関する JIS が 2020 年に制定されたが、衝撃音については規定されていない。そこで、衝撃音に対する測定法を審議中の ISO 会議に参加して国際的な関連動向を調査した。その結果、測定には、非線形領域を含む測定用に強大な出力の衝撃音（爆発音）の発生・受音装置が必要とされており、日本での実施には課題が多く、衝撃音の定義が曖昧である状況も明らかとなった。また、様々な環境で衝撃性騒音の発生・曝露状況や聴力保護に対する意識も調査した。その結果、作業場に限らず対策が必要な強度の衝撃音が発生しており、一部の当事者は聴力への影響を懸念しているが、対策はほぼ取られていない状況が判明した。（横山、小林）

3）手持ち電動工具操作時における手腕振動の測定方法の検討

Method for measuring hand-transmitted vibration during hand-held power tool operation

人体に影響を与える振動は全身振動と手腕振動に分類される。そこで、各規格に基づいた測定方法について実験的に検討した。電動ドリルを用いた穿孔作業で生じる手腕振動については、機器への３軸振動加速度センサの取り付け方法を検討し、取り付け位置の違いによる影響が無視できないことが判明した。また、全身振動と低周波音の複合影響を調べる実験を行う目的で、それらを同時に体感できる装置を試作した。この装置は、空気ばねを用いた椅子の座面を加振器で振動させることで全身振動を暴露させ、低周波音は装置上部のスピーカから暴露させることが可能である。本装置を用いて、8 Hz の鉛直振動と 40 Hz の純音を同時に暴露することが可能であることを確認した。（笹森）

（3）低周波音に関する研究

Low frequency sound

1）低周波音による圧迫感・振動感の知覚に関する研究

－圧迫感・振動感の不快感の評価への影響－

Perception of oppression and vibration feeling by low frequency sound

- Evaluation on annoyance caused by oppression and vibration feeling -

低周波数成分を含む自動車交通騒音を対象とした過年度の圧迫感、振動感および不快感に関する聴感実験データについて、構造方程式モデリングを適用して解析した結果、低周波数成分による不快感は、圧迫感・振動感を介した間接効果として説明できることが判明した。また、低周波数成分（ピーク周波数 40 Hz）を含む自動車騒音の通過台数を変化させ、曝露回数（0～5 回）による圧迫感、振動感および不快感評価に及ぼす影響に関する被験者実験を実施した。実験は低周波音実験室で行い、20～60 代の男女 32 名を対象とした。その結果、聴覚閾値を上回る低周波数成分が含まれる場合、曝露レベルに加えて曝露回数によっても反応が高くなる傾向が確認された。（牧野康、横山、小林、土肥）

2）家屋内における低周波音の簡易低減対策手法の模索

－100 Hz より低い周波数における検討と実家屋における低減効果の検証－

A trial of a simple reduction countermeasure for low-frequency sound in houses - Examination of frequencies below 100 Hz and verification of reduction effects in actual homes -

これまでに製作した 100 Hz を対象にした木製共鳴器について、より低域の周波数における吸音を実験的に検討した。木製共鳴器の孔の数を減らすことで対象周波数を 80 Hz に調整した。80 Hz に調整した共鳴器（90 cm×90 cm×30 cm）１個を当所が所有する模擬家屋内にベッドにおけるヘッドボードとして設置した結果、枕位置の音圧レベルが約 6 dB 低減した。これまでの結果と合わせて考慮すると 80～100 Hz の範囲であれば本共鳴器を用いて寝室における低周波音問題に対応できる可能性が示された。一方、共鳴器の対象周波数を低域にすると、共鳴器を構成する板の振動の寄与度が無視できなくなり、音響と振動の連成現象を考慮する必要性が示唆された。（土肥）

3）建具のアクティブ振動制御による建物内に透過する低周波音の低減

－低周波音域に適用可能な一体型制御システムの開発－

Reduction of low-frequency sound transmitted into a house by active vibration control of fittings - Development of a compact integrated control system applicable to low-frequency sound range -

超低周波音による窓のがたつきに対し、窓に取り付けるだけでアクティブ振動制御が可能な一体型システムの開発を検討しており、構成機器の選定・検証を行った。これまでに使用していたプロセッサでは、制御振動源と制御点間の二次経路推定に必要な FIR フィルタ長が不足し、90 Hz 以下の制御が困難であったが、プロセッサを Arduino に変更してフィルタ長を確

保することで、5 Hz まで制御範囲を拡張した。また、エラーセンサをレーザー変位計から振動加速度ピックアップに変更して小型化した際に自己ノイズが課題となっていたが、低ノイズ型に変更することで SN 比が 20 dB 改善し、より小さな振動にも適用可能となった。（岩永）

＜建築音響研究室＞

（1）多重壁の遮音性能向上に係る研究－低域共鳴透過現象の影響－

Study on improvement of sound insulation performance for multiple leaf partition - Effects of mass-air-mass resonances on sound insulation performance at low frequencies -

建物の断熱性能向上のために用いられる三層複層ガラスの統計入射音響透過損失を算出し、ガラス厚・中空層厚と遮音性能の関係を理論的に整理した。遮音性能は、中央ガラス厚を増加しても中高音域では変化せず、三層複層ガラスの重心を大きく片方に寄せると向上する。しかし、総厚及総面密度の二層複層ガラスの性能を超えることがないことが判明した。一方、積層気泡緩衝材の吸音性能の解析のために、N個の質点–N個のバネで構成される多層構造の共鳴周波数を定式化し、共鳴周波数と一致することを確認した。（杉江）

（2）音響メタマテリアルに基づく吸音体の基礎研究

－実効的な音響特性を有する吸音構造の実験的・解析的検討－

Experimental and analytical investigation of sound-absorbing structures with effective acoustic properties in acoustic metamaterials

音響メタマテリアルが、波長に依存する吸音体厚さの問題を解決し得る可能性に着目し、ヘルムホルツレゾネータおよびその配列方法による吸音特性について、実験的ならびに解析的に検証することを試みた。しかしながら、実効的な質量密度および体積弾性率が負となる音響メタマテリアルには様々な構造様式があり、それら物理モデルの評価ならびに音響特性の実験的抽出手法の検討に多くの時間を要し、具体的な有限要素法によるシミュレーションおよび 3D プリンタを用いた吸音体の試作には至らなかった。（鈴木）

（3）折り紙インパルス音源を用いた室内音響指標測定への応用（その２）

－適用限界の解明－

Application of the Origami impulse source to the measurement of room acoustics parameters (part 2) - Clarification of the Applicability to the measurement -

折り紙インパルス音源（OIS）の音源性状の把握を目的とし、残響室において音響エネルギーレベルを測定し、その周波数特性の再現性を検討した。測定経験の異なる複数のオペレーターを対象として測定した結果、オペレーターにかかわらず、高い周波数でのばらつきがやや大きい傾向であった。また、使用経験が多いほど、ばらつきは小さく高い再現性を示した。従来音源であるスターターおよび風船破裂音と比較した結果、OIS は同一のオペレーターによる試行で

あれば、両者に比べて同等又は高い再現性を示し、特に中音域以下においては、高い再現性を有することが判明した。（豊田、鈴木）

（４）Swept sine 信号を周期的に重複させた音源による残響時間の短時間測定の検討

Study of short-term measurements of reverberation time by swept sine signal overlapped periodically

Swept sine 信号を周期的に重畳させた音源を使用することで、SN 比を極力下げずに、元信号より短時間での残響時間測定を試みた。元信号を N 分割し、それらを同時に発生させた合成波を用いることによって、元信号の１回分と同じ時間で N 回の同期加算が可能となる。しかし、合成波の最大振幅が元信号の最大振幅以下に制限されるため、同期加算後の SN 比は元信号１回分の SN 比に対し $1/\sqrt{N}$ に低下することが判明した。また、残響時間に対して収録時間が短い場合、残響減衰曲線が下方に湾曲する。そこで、収録信号にノイズフロアとして定数を付加することで改善を試みたが、その効果は僅かであった。（新田）

＜圧電物性デバイス研究室＞

（１）生体高分子フィルムの電気機械特性

Determination of electromechanical properties of various biopolymer films

ナイロン 11 やシルクは生体由来の圧電性高分子である。これらが圧電性を発現するためには、分子鎖は一軸に配向する必要がある。圧電率と弾性率は分極軸と分子鎖の配向に基づくテンソルで表され、分子鎖の配向により異方性がある。圧電共鳴法および直接法で圧電、弾性テンソルを評価した結果、ナイロン 11 ではアミド結合間の分子鎖が柔軟なため弾性率の異方性は小さく、分子間の水素結合により他の圧電高分子より圧電率は小さい。シルク繊維が配向したシートでは構造解析により繊維方向にフィブロイン結晶が高配向することを確認した。シートの弾性率は繊維方向では垂直方向より５倍大きい。繊維が配列したシルクシートのずり圧電はフィブロイン結晶中で分子鎖が繊維方向に配向しているためである。（児玉、大久保）

（２）カルナウバ蝋エレクトレットの研究

Long-term storage properties of carnauba wax electrets

1919 年、世界で初めて江口元太郎博士がカルナウバ蝋エレクトレットと箔検電器による電荷測定法を報告した。1924 年に製作されたサンプルが国立科学博物館に保存されており、製作から 100 年後の 2024 年 12 月に表面電位を評価した。江口による報告、56 年前の高松（理研）による距離補正のない表面電位評価法のそれぞれの値と比較検証を行い、電荷密度は初期値の 1/20～1/10 と推定された。2025 年 9 月の国際エレクトレットシンポジウム（ISE20）の 100th Anniversary Event にて詳細を報告した。（安野、児玉）

（3）面ずり圧電を発現する生体高分子センサ機構

Research on sensing mechanism of biopolymer sensors

2024 年度に、繊維が平行になるようにシルクを配列したシートを金属板に積層し、圧電ユニモルフとしたセンサを試作および感度測定を行った。繊維が辺と平行となる正方形とし、向かい合う一対の頂点を固定、もう一対の頂点に厚み方向の力を加える構造とした。センサは音圧による電荷感度を示すことからシルクシートは正圧電効果による電気変位を示すことが示された。そこで、ユニモルフに電圧を印加したわみの面内分布を、光ヘテロダイン法を用いた微小変位量測定装置で評価した。その結果、圧電ユニモルフの頂点のたわみは 100 Hz、50 V の電圧印加で 4 nm となり、かつ頂点を最大値とする放物線状の分布を示すことを確認した。本結果から、シルクシートを用いたユニモルフの逆圧電効果が確認された。（大久保、児玉）

＜補聴器研究室＞

（1）バイノーラル音源を用いた補聴器の指向性機能の性能評価に関する研究

Performance evaluation of directional function for hearing aid using binaural sound

周囲の雑音を低減し、聞きたい音を選択する補聴器の指向性機能の性能評価方法として、被検者による主観的評価である二者択一型日本語音声了解度試験を実施した。実験では、補聴器のマイクロホンで収録したバイノーラル音源（環境音）と、音声合成により作成した試験音声を用いた。その結果、平均で 63 %の正答率を 90 %に改善できることが示された。また、AI を用いた音声テキスト変換による性能評価を試みた結果、正答率は主観的評価に劣るものの、改善率では同等の結果を得た。今後、AI による客観的評価を活用できる可能性があると考えられる。（平尾）

1-2. 業績発表事項

（１）論　文

1．Experiments on the peculiar region and threshold of oppressive or vibratory sensation caused by low-frequency pure tones

M. Morinaga*(Daido Univ.), S. Yokoshima*(Kanagawa ERC), T. Kobayashi, S. Yokoyama, K. Makino, T. Doi and T. Yamazaki*(Kanagawa Univ.)

Acoust. Sci. & Tech.46(2) pp.136-145

2．低周波数成分を含む自動車単体騒音に対する主観評価

籔内和真*（神奈川大），横島潤紀*（神奈川環科セ），森長 誠*（大同大），牧野康一，土肥哲也，横山 栄，小林知尋，山崎 徹*（神奈川大）　　自動車技術会論文集 56(5) pp. 940-946

（２）研究速報等

1. (Acoustical Letter) Cartridge-type cellular polypropylene microphone with broadband sensitivity　T. Kamakura*, S. Sakai*(Smart AE), H. Hayashi*(KGK), Y. Yasuno and H. Nomura*(UEC)

Acoust. Sci. & Tech. 47(2)

2. (研究速報)騒音障害防止のためのガイドラインに基づく個人ばく露測定による電動ドリル穴あけ作業音の評価

横山 栄，小林知尋，横田考俊，田中典英*（ミヤナガ）

日本音響学会誌 81(10)

3. (研究報告)差音の発生機構と観察実験

竹内 透*（元東京学芸大），杉江 聡，新田龍馬，新田英雄*（東京学芸大）　　物理教育 73(3)

（３）研究発表等

1．inter-noise2025 (2025.8.24～27　Sao Paulo, Brazil)

① Simple identification method of wind noise using wind speed difference generated inside wind screen

T. Doi, K. Iwanaga, T. Nakayama* and Y. Nakajima*(RION)

② Experimental study on outdoor sound propagation over rice fields

T. Yokota, S. Kouda and N. Shinohara*(AERC)

2．6th Joint Meeting ASA and ASJ (2025.12.1～5　Hawaii, USA)

① Sound absorption performance of layered bubble wrap

S. Sugie and E. Toyoda

② Field survey for the noise exposure level of nursery teachers applying personal noise dosimeters

S. Yokoyama, T. Kobayashi and H. Funaba*(Surugadai Univ.)

③ Japanese trends related to hearing protector fit testing

S. Yokoyama, T. Kobayashi, A. Takeda* and T. Nakaichi* (RION)

④ Reduction of transmitted infrasound in a residential house via active vibration control of window rattling: A field experiment　K. Iwanaga and T. Doi

⑤ Improvement of sound transmission through partitions for protection against infection by adding resonators R. Nitta and S. Sugie

⑥ Numerical investigation of the influence of aerodynamic sound source movement on the high-speed railway noise Y. Makino and T. Doi

⑦ Examination of the influence of environmental noise on aircraft noise monitoring K. Sakoda*(RION) and I. Yamada

⑧ Deep learning-based sound source separation for quantitative evaluation of the influence of disturbance sounds on aircraft noise T. Nakayama*, R. Sato*, N. Hiruma*, T. Ezoe* (RION), T. Yokota and S. Kouda

⑨ The risk of noise-induced hearing loss from routine instrumental practice in school wind bands Y. Kato*(Nihon Univ.), S. Yokoyama and J. Kim*(Musashino Univ.)

3. 11th Edition of International Conferences on Wind Turbine Noise (2025.6.10～13 Copenhagen, Denmark)

The effects of low frequency noise considering the real complainants and real sites, and methodology for surveys of residents and development of mobile devices for good understanding on sound at wind turbine sites S. Yamada*, T Kitamura*(Univ. of Yamanashi), H. Ochiai, T. Doi and K. Iwanaga

4. 2nd Green Tranquil Industry Forum (2025.7.11 Seoul, Korea)

Japanese experience with the development of novel designed barriers to reduce road traffic noise K. Yamamoto

5. 20th International Symposium on Electrets (2025.9.1～5 Matsue, Japan)

① A tribute to Eiichi Fukada, Father of piezoelectric polymer T. Furukawa

② Dielectric relaxation and chain dynamics in crystalline, noncrystalline and molten phases of homo and copolymers of vinylidenefluoride T. Furukawa and H. Kodama

③ Surface potential measurement of Eguchi's electret in 2024 Y. Yasuno

④ Sensitivity change in the electret condenser microphone with long-term preservation Y. Yasuno

⑤ Surface potential of carnauba wax electret 100 years after its fabrication Y. Yasuno, N. Okubo, M. Maejima*, H. Kono*(NMNS) and Y. Suzuki*(Univ. of Tokyo)

⑥ Elucidation of microscopic piezoelectricity of poled polar polymers H. Kodama, T. Sugano*, T. Nakajima*(TUS) and T. Furukawa

⑦ Sensing mechanism of force sensor using surface shear piezoelectricity N. Okubo, A. Kitajima*(TUS), H. Kodama and T. Nakajima*(TUS)

⑧ Shear mode piezoelectricity in oriented cellulose diacetate films determined by piezoelectric resonance measurement H. Okawa*(TUS), H. Kodama, J. Kobayashi* and T. Nakajima*(TUS)

⑨ Dielectric and piezoelectric properties of polyacrylonytrile and poly(acrylonytrile/vinyl acetate)copolymer M. Umeda*(TUS), H. Kodama, K. Yoshitake*, J. Kobayashi* and T. Nakajima*(TUS)

⑩ Piezoelectricity in parallel-aligned silk sheets
A. Kitajima*(TUS), N. Okubo, H. Kodama, J. Kobayashi* and T. Nakajima*(TUS)

⑪ Piezoelectric properties of corona-poled nylon 11 films
T. Shimada*(TUS), H. Kodama, J. Kobayashi* and T. Nakajima*(TUS)

⑫ Three-dimensional position detection using cellular polypropylene electret ultrasonic microphone
R. Yoshii*(TUS), Y. Yasuno, H. Kodama, J. Kobayashi* and T. Nakajima*(TUS)

6．2025 IEEE International Conference on Device Technologies for Diversified Applications (2025.10.20～22　Sendai, Japan)

Drift-free three-dimensional position and attitude tracking with direction-sensitive ultrasonic microphones
R. Yoshii*(TUS), Y. Yasuno, H. Kodama, J. Kobayashi* and T. Nakajima*(TUS)

7．REAAA Conference Goyang 2025 (2025.10.26～31　Goyang, Korea)

Study on improving the certainty of evacuation guidance in tunnels using existing loudspeaker equipment
Y. Nishimura*, Y. Isobe*(Shutoko), K. Kanno*, E. Kakoi*, S. Umeda*(OC), S. Yokoyama and T. Kobayashi

8．日本音響学会 2025 年秋季研究発表会（2025.9.10～12　東北工業大学）

① 三層複層ガラスの低音域共鳴透過周波数における遮音性能
杉江 聡，豊田恵美

② 背後空気層を持つ有孔板を用いた家屋内低周波騒音の低減対策
－実家屋における「吸音ベッド」の実験結果－　土肥哲也，岩永景一郎

③ 個人ばく露計による保育者の騒音ばく露レベル調査
横山 栄，小林知尋，船場ひさお*(駿河台大)

④ 室内低周波騒音のアクティブ制御－小型加振器で振動させた壁面を制御音源として用いた検討－
岩永景一郎，土肥哲也

⑤ 全身振動と低周波音を同時に暴露可能な実験装置の試作
笹森咲依，岩永景一郎，土肥哲也

⑥ 航空機騒音モニタリングにおける AI 活用：航空機騒音と妨害音の音源分離の試み
中山 紬*，佐藤 僚*，昼間信彦*，江副泰亮*(リオン)，横田考俊，甲田俊介

⑦ 毛髪が VHF 音の伝搬に与える影響－パルスエコー法を用いた髪型推定の試み－
松下宗輝*，久保谷旭陽*，近藤奏海*(神奈工大)，廣江正明，Zuhal Firdaus*，中村健太郎*(科学大)，長谷川英之*(富山大)，上田麻理*(神奈工大)

⑧ VHF 領域に顕著な成分を持つ音源に対する聴こえ評価の試み
久保谷旭陽*，松下宗輝*，近藤奏海*(神奈工大)，Zuhal Firdaus*，中村健太郎*(科学大)，廣江正明，上田麻理*(神奈工大)

⑨ 自動車交通騒音に対する不快感の評価構造－低周波数成分の影響に着目して－
籔内和真*(神奈川大)，横島潤紀*(神奈川県環境科学セ)，森長 誠*(大同大)，牧野康一，土肥哲也，横山 栄，小林知尋，山崎 徹*(神奈川大)

9. 日本音響学会 2026 年春季研究発表会（2026.3.17～19　日本大学）

① 保育・学童施設における保育者・指導員の音響ばく露
横山 栄，小林知尋，船場ひさお*(駿河台大)

② 音楽ホールにおけるオーケストラ奏者の音響ばく露　横山 栄，小林知尋

③ 毛髪が VHF 音の伝搬に与える影響（その 2）
－パルスエコー法を用いた毛髪の反射特性の検討－
近藤奏海*，松下宗輝*，久保谷旭陽*(神奈工大)，廣江正明，
中村健太郎*(科学大)，長谷川英之*(富山大)，上田麻理*(神奈工大)

④ VHF 音の聴こえに関する基礎的検討-耳栓着用時の聴覚閾値計測
久保谷旭陽*，松下宗輝*，近藤奏海*(神奈工大)，
中村健太郎*(科学大)，廣江正明，上田麻理*(神奈工大)

⑤ 楽器演奏者の日常的な騒音ばく露調査-打楽器演奏者を対象として-
新井一輝*，宮崎壱颯*(神奈工大)，
窪 耕一郎*(RCC DRUM SCHOOL)，三浦貴大*(産総研)，
坂田英明*(川越耳鼻科クリニック)，廣江正明，上田麻理*(神奈工大)

⑥ 楽器演奏者における耳栓装着の効果 －聴力保護と演奏パフォーマンスへの影響－
宮崎壱颯*，新井一輝*(神奈工大)，
窪 耕一郎*(RCC DRUM SCHOOL)，三浦貴大*(産総研)，
坂田英明*(川越耳科学クリニック)，廣江正明，上田麻理*(神奈工大)

⑦ 吹奏楽部における日常的な楽器演奏による音響ばく露の現状調査と対策の考察　加藤優稀*，橋本 修*(日大)，金 政秀*(武蔵野大)，横山 栄

10. 日本騒音制御工学会 2025 年春季研究発表会（2025.4.17　オンライン）

① Health Canada “Guidelines for the Safe Use of Ultrasound(Part II)” における曝露基準
廣江正明，石井要次*(積水化学)，
David Michaud*(Health Canada)，上田麻理*(神奈工大)

② 吸音体を用いた家屋内低周波騒音の低減対策－「吸音ベッド」の試行実験結果－
土肥哲也，岩永景一郎，鈴木 肇

③ ICNIRP STATEMENT における VHF 音の位置づけ
石井要次*(積水化学)，廣江正明，上田麻理*(神奈工大)

④ 騒音制御工学的視点からの VHF 音研究の今後の展望！？
上田麻理*(神奈工大)，廣江正明，
石井要次*(積水化学)，中村健太郎*(科学大)

11. 日本騒音制御工学会 2025 年秋季研究発表会
(2025.11.11～12　水戸市民会館　オンライン併用)

①「我が国の環境騒音に係るあり方に関する検討会」の概要　山本貢平

② INCE/J 振動測定マニュアルにおける分析対象振動データの抽出方法に関する一考察－３方向合成振動レベルの活用－　平尾善裕

③ 低周波騒音の音源特定方法の検討－ガンマイクとコヒーレンスを用いた事例－
土肥哲也，岩永景一郎

④ 水田地帯における音の伝搬特性に対する地表面および風の影響に関するフィールド実験－その２ 地表面特性の変化による風の影響の違い－
横田考俊，甲田俊介，高橋 慧*，
安田洋介*(神奈川大)，篠原直明*(空港支援機構)

⑤ 音楽ホールにおけるオーケストラ奏者の音響ばく露レベル調査

横山 栄，小林知尋

⑥ 水田地帯における音の伝搬特性に対する地表面および風の影響に関する
フィールド実験－その１ 各耕作過程における地表面の音響特性－

高橋 慧*，安田洋介*(神奈川大)，
横田考俊，甲田俊介，篠原直明*(空港支援機構)

⑦ 低周波音の評価実験における騒音感受性の効果

森長 誠*(大同大)，横島潤紀*(神奈川県環境科学セ)，横山 栄

⑧ 基礎解体工事振動に対する実建物での心理反応に関する検討

林健太郎*(ベネック)，横島潤紀*(神奈川県環境科学セ)，
平尾善裕，馬屋原博光*(リオン)，冨田隆太*(日大)，松田 貫*(BSK)

⑨ 学童保育における指導員の騒音ばく露レベル調査

山谷悠翔*，船場ひさお*(駿河台大)，横山 栄

12. 2025 年度日本建築学会大会（2025.9.9～12　九州大学）

① 板ガラスの音響透過損失 その 7 三層複層ガラスの遮音性能

杉江 聡，上沢聡史*(AGC)，山出昌紀*(CGP)，
山下厳己*(日本板硝子)，豊田恵美

② 低周波数領域における室内音圧レベル測定の課題と解決に向けた検討

會田 祐*(長谷工)，杉江 聡，竹林健一*(鹿島技研)，富来礼次*(大分大)

③ 板ガラスの音響透過損失 その 6 ガス入り複層ガラスの特徴

山出昌紀*(CGP)，上沢聡史*(AGC)，
山下厳己*(日本板硝子)，杉江 聡，豊田恵美

④ 板ガラスの音響透過損失 その 8 非対称な三層複層ガラスの特徴

山下厳己*(日本板硝子)，上沢聡史*(AGC)，
山出昌紀*(CGP)，杉江 聡，豊田恵美

⑤ 日常的な楽器演奏による騒音性難聴の危険性に関する研究

加藤優稀*(日大)，金 政秀*(武蔵野大)，横山 栄

13. 第 70 回日本聴覚医学会学術講演会（2025.10.15～17　成田国際文化会館）

① 認定こども園における保育者の騒音ばく露に関する実態調査

横山 栄，小林知尋

② 楽器演奏家の日常的な音響曝露調査－Jazz 演奏者を対象として－

上田麻理*(神奈工大)，廣江正明，坂田英明*(川越耳科学クリニック)

14. 日本自動車技術会 2025 年春季学術講演会（2025.5.21～23 パシフィコ横浜）
低周波数成分を含む自動車単体騒音に対する主観評価

籔内和真*(神奈川大)，横島潤紀*(神奈川県環境科学セ)，
森長 誠*(大同大)，牧野康一，土肥哲也，
横山 栄，小林知尋，山崎 徹*(神奈川大)

15. 土木学会全国大会 第 80 回年次学術講演会（2025.9.10～12　熊本城ホール）
既存拡声放送設備を活用した車内に聞こえる拡声放送実験

西村友希*，礒部圭隆*（首都高），梅田祥吾*，
菅野桂子*，栫 笑璃*(オリコン)，横山 栄，小林知尋

16. 第 73 回応用物理学会春季学術講演会
（2026.3.15～18　東京科学大学　オンライン併用）
光ヘテロダイン微小振動計を用いた２次元面直方向の動的変位測定
田中利奈*(東理大)，児玉秀和，
飯島高志*，小林遵栄*，中嶋宇史*(東理大)

17. 日本音響学会 騒音・振動研究会
（2025.8.19　しのざき文化プラザ オンライン併用）
吹奏楽部における日常的な楽器演奏による騒音性難聴の危険性に関する研究
加藤優稀*(日大)，金 政秀*(武蔵野大)，横山 栄

18. 日本音響学会 建築音響／騒音・振動研究会
（2025.10.7　近畿大学 オンライン併用）
積層した気泡緩衝材の吸音特性－共鳴周波数の推定－
杉江 聡，豊田恵美

19. 日本音響学会 騒音・振動研究会
（2026.1.13　沖縄県男女共同参画センター　オンライン併用）
自動車騒音に対する不快感の因果分析－低周波数成分の影響に着目して－
籔内和真*(神奈川大)，横島潤紀*(神奈川県環境科学セ)，
森長 誠*(大同大)，牧野康一，土肥哲也，
横山 栄，小林知尋，山崎 徹*(神奈川大)

20. 日本産業衛生学会 第 31 回騒音障害防止研究会
（2025.5.16　東北大学百周年記念会館　オンライン併用）
個人ばく露計による電動ドリル穴あけ作業音の測定
横山 栄，小林知尋，横田考俊，田中典英*(ミヤナガ)

21. 日本産業衛生学会 第 32 回騒音障害防止研究会
（2025.11.7　小林理研　オンライン併用）
認定こども園の保育者を対象とした騒音ばく露の実態調査
横山 栄，小林知尋

（４）解説記事等

1. ISO/TC 43・ISO/TC 43/SC 1・ISO/TC 43/SC 2・ISO/TC 43/SC 3 総会－音響に関する国際規格の審議状況：2024 ベルリン会議（ハイブリッド開催）－
今泉博之*，佐藤 洋*，高橋弘宜*(産総研)，倉片憲治*，
赤松友成*(早稲田大)，鈴木陽一*(東北文化学園大)，
藤坂洋一*，山崎隆志*(リオン)，鵜木祐史*(北陸先端大)，
桑野園子*(大阪大)，山田一郎*(空港支援機構)，高橋幸雄*(安衛研)，
杉江 聡，吉村純一，横田考俊，小林知尋，下田康平*(-)，
君塚郁夫*(スモールファン研究会)，和田将行*(日産)，
白橋良宏*(神奈川大)，岡田恭明*(名城大)，大島俊也*(-)，
森長 誠*(大同大)，永幡幸司*(福島大)，須田直樹*(小野測器)，
平川 侑*(国総研)，平光厚雄*(建築研)，佐藤逸人*(神戸大)，
澤田浩一*(水産技術研)　　日本音響学会誌 81(6)／騒音制御 49(4)

2. 小特集「音響学における AI 利用の最前線」にあたって
海老原格*(筑波大)，小林知尋　　日本音響学会誌 81(8)

3. 古くて新しい建築音響の問題 －低音域の遮音性能測定－
會田 祐*(長谷工), 杉江 聡,
竹林健一*(鹿島技研)　日本音響学会誌 81(12)
4. 残響室の軌跡とその未来－不整形７面体残響室の誕生と残響室法吸音率測定の標準化－　杉江 聡　日本音響学会誌 82(1)
5. 超低周波音の影響及び測定・評価方法　落合博明　騒音制御 49(3)
6. 絶滅危惧種の飼育施設における音環境－ニホンライチョウの実測例－
石井要次*(積水化学), 土肥哲也, 森川大輔*(富山県立大),
秋葉由紀*(富山ファミリーパーク)　騒音制御 49(4)
7. 航空機騒音測定・評価マニュアルに基づく測定の実際－地方公共団体による測定実施状況と測定方法に関しての補足－
山元一平*(BSK), 牧野康一　騒音制御 49(6)
8. 騒音制御工学会創立期(1970 年代) の騒音・振動を取り巻く状況
黒木 拓*(熊谷組), 牧野康一　騒音制御 50(1)
9. 工学会のこれまでと現在地－技術部会・研究部会－
杉江 聡　騒音制御 50(1)
10. 工学会のこれまでと現在地－編集委員会～会誌部会－
牧野康一　騒音制御 50(1)
11. ISO 23351-1「ブースの音声レベル低減量の測定―第１部：実験室測定」の解説　豊田恵美　音響技術 54(2)
12. 特集にあたって　杉江 聡, 土屋裕造*(戸田建設),
星野 康*(日本環境アメニティ) 音響技術 54(3)
13. 集合住宅に用いられる乾式戸境壁に求められる様々な性能
杉江 聡　音響技術 54(3)
14. 講演録 住環境トラブル解決・定例研修会
落合博明, 岡本光樹*, 高橋邦明*, 高橋美和*(第二東京弁護士会)
NIBEN Frontier 2025 年 10 月号
15. 音（物理／化学部）　土肥哲也　理科年表 2025
16. 騒音・振動・悪臭　土肥哲也　環境年表 2025-2026

（５）小林理研ニュース、小林理学研究所レポート

１）小林理研ニュース（季刊）をつぎのとおり刊行した。

Ｎｏ．１６８　２０２５年　４月　　Ｎｏ．１６９　２０２５年　７月
Ｎｏ．１７０　２０２５年１０月　　Ｎｏ．１７１　２０２６年　１月

２）小林理学研究所レポート（年報）をつぎのとおり刊行した。

Ｖｏｌ．３７（２０２５年版）　２０２６年 １月

＊ 外部機関所属

1-3. 外部から委嘱された委員および講師等

（1）委員および役員等

氏　名	機 関 等 名	委　嘱　名
山本 貢平	環境省	環境影響審査助言委員
	東京都	東京都環境審議会委員
	(一財)空港振興・環境整備支援機構	評議員
	(一財)防衛施設協会	評議員
	成田国際空港(株)	地域環境委員会委員
	(株)高速道路総合技術研究所	NEXCO 総研・研究アドバイザー
	中央復建コンサルタンツ(株)（環境省）	我が国の環境騒音に係るあり方に関する検討会委員
吉村 純一	防衛省北関東防衛局	北関東防衛施設地方審議会委員
	川崎市	川崎市大規模小売店舗立地審議会委員
	(一社)日本音響学会	ISO/TC43/SC2(建築物の音響)専門委員会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	国際部会委員
平尾 善裕	(一社)日本音響学会	評議員
	(公社)日本騒音制御工学会	環境振動評価分科会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	道路交通振動予測式作成分科会委員
	(一社)日本建築学会	環境工学委員会・環境振動運営委員会小規模建築物振動特性ＷＧ委員
廣江 正明	東京都	東京都環境影響評価審議会委員
	(一社)日本音響学会	理事
	(公社)日本騒音制御工学会	副会長
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会社会調査データアーカイブ分科会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	総務部会部会長
	(公社)日本騒音制御工学会	受託事業部会部会長
	(公社)日本騒音制御工学会	選奨審査部会委員

氏　名	機 関 等 名	委　嘱　名
廣江 正明	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会高周波音検討分科会委員
	日本工営(株)	「空飛ぶクルマ離発着場における予測手法の開発」に関する専門家ヒアリング委員
牧野 康一	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	騒音・振動研究委員会委員
	(一社)日本音響学会	IEC/TC29 国内委員会委員
	(一社)日本音響学会	スポーツ音響調査研究委員会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	評議員
	(公社)日本騒音制御工学会	会誌部会特集委員会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会騒音伝搬分科会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会ノイズマップ分科会委員
杉江 聡	神奈川県	第 19 次神奈川県公害審査会委員
	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	代議員
	(一社)日本音響学会	ISO/TC43/SC2(建築物の音響)専門委員会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	理事
	(公社)日本騒音制御工学会	受託事業部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	総務部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会部会長
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会遮音分科会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	認定技士部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	2026 年春季研発実行委員会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	2026 年秋季研発実行委員会幹事
	(一社)日本建築学会	建築音響測定法小委員会委員
	(一社)日本建築学会	音環境規準検討小委員会幹事
	(一社)日本建築学会	集合住宅の音環境性能基準・設計指針小委員会委員
	(一社)日本音響材料協会	「音響技術」編集委員会委員

氏　名	機 関 等 名	委　嘱　名
土肥 哲也	環境省	新幹線鉄道騒音対策に関するワーキンググループ委員長
	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	論文編集委員会委員
	(一社)日本音響学会	音響サイエンスシリーズ編集委員会委員長
	(一社)日本音響学会	騒音・振動研究委員会委員
	(一社)日本音響学会	第66回日本音響学会論文賞選定委員会選定委員
	(公社)日本騒音制御工学会	評議員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会低周波音分科会主査
	(公社)日本騒音制御工学会	社会貢献部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	図書出版部会委員
	(一社)日本機械学会	環境工学部門　第1技術委員会委員
豊田 恵美	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	建築音響研究委員会副委員長
	(一社)日本音響学会	功績賞選定委員会選定委員
	(一社)日本音響学会	音響遺産認定委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会不思議音分科会委員
	(一社)日本建築学会	オフィス音環境AIJES検討WG委員
横田 考俊	(公財)成田空港周辺地域共生財団	航空機騒音監視評価委員会委員
	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	道路交通騒音調査研究委員会幹事
	(一社)日本音響学会	ISO/TC43/SC1（騒音）専門委員会幹事
	(公社)日本騒音制御工学会	理事
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会騒音伝搬分科会主査
	(公社)日本騒音制御工学会	事業部会部会長

氏　名	機 関 等 名	委　嘱　名
横田 考俊	(公社)日本騒音制御工学会	総務部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	認定技士部会委員
	日本工営(株)	「空飛ぶクルマ離発着場における予測手法の開発」に関する専門家ヒアリング委員
児玉 秀和	(公社)高分子学会	関東支部武蔵野地区懇話会幹事
岩永景一郎	(公社)日本騒音制御工学会	評議員
	(公社)日本騒音制御工学会	事業部会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会アクティブコントロール分科会委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会低周波音分科会委員
小林 知尋	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	騒音・振動研究委員会委員
	(一社)日本音響学会	ISO/TC43/SC1（騒音）専門委員会委員
	(一社)日本音響学会	和文誌編集委員会幹事
横山　栄	東京都	大規模小売店舗立地審議会委員
	(一社)日本音響学会	評議員
	(一社)日本音響学会	音響教育委員会委員
	(一社)日本音響学会	騒音・振動研究委員会幹事
	(公社)日本騒音制御工学会	評議員
落合 博明	総務省	公害等調整委員会専門委員
	(公社)日本騒音制御工学会	研究部会低周波分科会委員
	(公財)テクノエイド協会	補聴器技能者試験部会委員
	中央復建コンサルタンツ(株)（環境省）	令和 7 年度風力発電施設から発生する騒音に関するワーキンググループ委員

（2）大学関係の講師等

氏　名	機 関 等 名	委　嘱　名	講 義 内 容
横山　栄	学習院大学理学部	講　師（非常勤）	物理実験
	武蔵野大学工学部	講　師（非常勤）	音環境

（３）講習会関係の講師等

氏　名	機 関 等 名	講 習 会 等 名	講 演 内 容
山本 貢平	環境省環境調査研修所	令和７年度 騒音・振動・悪臭防止研修	騒音−性質と測定・防止対策−
	九州大学大学院芸術工学研究院	特別講義	道路交通騒音の予測手法の変遷と環境基準
平尾 善裕	(公社)日本騒音制御工学会	技術講習会「騒音・振動技術の基礎と測定実習」	振動の測定と評価
廣江 正明	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	音響の基礎
牧野 康一	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	航空機騒音の基礎 航空機騒音の測定と予測
杉江　聡	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	外部建具の遮音性能 住宅防音・学校防音
土肥 哲也	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	低周波音
	神奈川県環境科学センター	大気水質等担当職員研修（技術研修・騒音測定）	低周波音の測定 低周波音体感ブースによる体験実習
	(公社)日本騒音制御工学会	「騒音・低周波音の基礎と測定実習」講習会	音の基礎 騒音等の測定と評価
	(公社)日本騒音制御工学会	技術講習会「低周波音の基礎と実習・体験」	低周波音の体験
	(一社)日本機械学会	講習会「静粛設計のための防音・防振技術」	音響の基礎・防音の基礎
豊田 恵美	防衛省	航空機騒音等研修（基礎クラス）	音響実験施設の見学・説明等
	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	遮音・吸音
横田 考俊	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	砲撃音

氏　名	機 関 等 名	講 習 会 等 名	講 演 内 容
岩永景一郎	環境省環境調査研修所	令和７年度騒音・振動・悪臭防止研修	低周波音の測定・体験等実習
	防衛省	航空機騒音等研修（基礎クラス）	音響実験施設の見学・説明等
	神奈川県環境科学センター	大気水質等担当職員研修（技術研修・騒音測定）	低周波音体感ブースによる体験実習
	(公社)日本騒音制御工学会	技術講習会「騒音・振動技術の基礎と測定実習」	騒音の測定と評価
	(公社)日本騒音制御工学会	技術講習会「低周波音の基礎と実習・体験」	ガタツキ・定在波体験
	(公社)日本騒音制御工学会	「騒音・低周波音の基礎と測定実習」講習会	騒音等の測定実習
横山　栄	防衛省	航空機騒音等研修（応用クラス）	騒音の影響と評価
新田 龍馬	防衛省	航空機騒音等研修（基礎クラス）	音響実験施設の見学・説明等
落合 博明	環境省環境調査研修所	令和７年度騒音・振動・悪臭防止研修	低周波音−性質と測定・防止対策−
			低周波音の測定・体験等実習
	福島県相馬郡飯舘村	風力発電に関する村民勉強会	低周波音と風車音について
	(公財)テクノエイド協会	令和７年度認定補聴器技能者養成事業第Ⅱ期養成課程講習会	音響学(Ⅰ)(Ⅱ)
	(公社)日本騒音制御工学会	技術講習会「低周波音の基礎と実習・体験」	低周波音の測定実習
	(一社)日本環境アセスメント協会(環境省)	環境影響評価研修	風力発電施設の騒音環境

２．研修事業

（１）つぎのとおり、研修生、研究生等を受け入れた。

１）騒音入門研修講座　９名

２）圧電物性・デバイス講座　９名

３）研究生

神奈川大学大学院生	１名
東京工業高等専門学校専攻科生	１名
東京工業高等専門学校学生	１名

（２）音響科学博物館来館者数

4 月	2 件	15 名	11 月	3 件	47 名
5 月	4 件	22 名	12 月	2 件	43 名
6 月	3 件	18 名	1 月	3 件	12 名
7 月	4 件	38 名	2 月	3 件	23 名
8 月		0 名	3 月	3 件	10 名
9 月	2 件	10 名			
10 月	7 件	20 名	合　計	36 件	258 名

３．性能評価事業

建築基準法に基づく性能評価業務（遮音構造）　１件

【 その他事業 】

１．受託事業

（１）騒音、振動、低周波音等に関する受託事業

主な受託事業内容

・現場測定調査（実態把握調査および騒音・振動対策）
・模型実験（騒音の予測および解析調査）
・計算機を用いた予測分析調査
・音響・振動計測システムの開発
・文献調査（国外・国内の資料収集、分類）

委託者別件数

・公的機関等	５件
・公益・一般法人	６件
・民　間	１８件

（２）遮音板の耐飛び石性試験　８件

（３）材料の音響性能試験（遮音、吸音率等）　９４件

（４）斜入射吸音率測定試験　５件

（５）建築音響に関する受託事業　１３件

（６）圧電材料の開発およびその応用に係わる受託事業　２３件

２．不動産賃貸事業

（１）土　地	法人	１件
	個人	１件
（２）駐車場	個人	３０件